

2021年2月18日
西日本旅客鉄道株式会社

第4種踏切の踏切ゲート開発

当社は「鉄道安全考動計画 2022」において、踏切障害事故の「4割減からさらに1割減」の到達目標に向けて取り組んでおり、特にリスクの高い第4種踏切は廃止や第1種への格上げによって、その踏切数を大幅に減らすことに努めてきました。

この度、第4種踏切の更なる安全対策として踏切ゲートを開発し、現地試験を実施しますのでお知らせします。

1. 踏切ゲートのねらいと主な特徴

踏切通行者に物理的な一時停止・左右確認を促し、自動車通行不可（軽車両通行可能）の踏切を対象に開発。

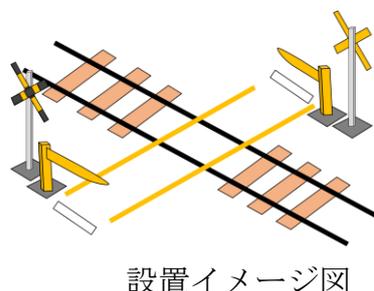
＜常時遮断式＞ 通行者の踏切横断時のみ開閉

＜水平開閉式＞ 遮断棒を支えず通行でき、軽車両を降車せず押開け可能

＜半自動式＞ 通行者の動作は出入時の「押開け」のみで、「開状態」ホールド後、自閉

＜設置位置・形状＞ 踏切一旦停止線付近に設置し、引っかかり防止を考慮したアーム形状

※(株)てつでん・(株)サンポールと共同開発し、特許出願中



2. 現地試験の概要

- ・ 時期：2021年2月中旬～3月下旬
- ・ 箇所：山陰線 長門三隅～長門市駅間 中山第1踏切（山口県長門市）



踏切ゲート設置前



踏切ゲート設置後

3. 導入計画

実証実験の結果を踏まえ、今後の展開を検討していきます。